

特別活動（LHR）学習ワークシート【振り返り】

テーマ 「小学生のスマートフォン【携帯電話】の使用を禁止すべきか」

※ 誰の立場を優先すべきか、全体（公共の利益）を実現するために望ましいことは何か。
などを考慮しながら結論を導こう。

班の結論	肯定	否定
主たる理由		
(2つ)		

☆まとめ 以下の点に注意して、話し合いの時の態度を振り返ろう。

- 1 不十分であった。
- 2 やや不十分であった。
- 3 まあまあできた。
- 4 よくできた。

話し合いに積極的に参加できた。	1	2	3	4
色々な観点から考えることができた。	1	2	3	4
冷静に根拠のある主張ができた。	1	2	3	4
対立する相手の主張を十分に理解することができた。	1	2	3	4
班員全体で協力して結論をだすことができた。	1	2	3	4
他の班の意見を聞いて考えが広がった。	1	2	3	4

☆この学習の感想

公民科 実践事例【議論する】〔公平・公正、正義〕

- 1 対象学年 第3学年
- 2 単元名 現代の諸課題（家族/人類の福祉/正義と公正）
- 3 ねらい 正解が一つに定まらない様々な課題を、これまでに習得した知識を活かしながら、他者と話し合い、自分の意見を適切に述べ、さらに他人の意見に耳を傾け尊重することが出来るようになる。
- 4 本時の目標 クラス対抗のディベートを行い、様々な諸課題について議論する。ディベートの準備段階で、クラス内でのディスカッションを通じて合意形成の手法を経験し、ディベートでは相手に論理的に自分の考えを伝えることで、多面的、論理的な思考力を養う。

【ディベートテーマ】

(1)日本は夫婦別姓選択制を法的に導入すべき（関連項目：家族）

(2)日本は消費税を25%まで引き上げるべき（関連項目：人類の福祉/正義と公正）

5 本時の展開（1時間にディベート2本）

過程	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	教材・教具等
導入	本時の内容把握	本時の流れを全員で確認する。 ディベートの注意事項や進行の仕方を司会の生徒から伝える。 ディベートの進行（司会2名、タイムキーパー2名）はすべて生徒が行い、ジャッジは生徒4名と教諭1名の計5名で行い、過半数の票を獲得した方を勝ちとする。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始までに、各自の役割の位置についておくように指示しておく。 ・司会者用台本を準備しておく。 	
展開	ディベート（2本）	①賛成側立論 2分 ②反対側 1分の作戦タイム→1分の反対尋問 ③反対側立論 2分 ④賛成側 1分の作戦タイム→1分の反対尋問 ⑤両側作戦タイム 1分 ⑥反対側反駁 2分 ⑦賛成側反駁 2分 ⑧両側作戦タイム 1分 ⑨反対側反駁 2分 ⑩賛成側反駁 2分 ⑪ジャッジ 1分 ⇒ 判定		<ul style="list-style-type: none"> ・司会進行の補助を行う。 ・反駁が難しいため、その後の展開について、両側それぞれに助言を行う。 ・ディベートを見ている生徒の態度にも留意し、不必要な発言や行動には注意を払う。 	ワークシート ディベートの書記 はフ ロー シート
まとめ	振り返り	ジャッジ教員からの講評 担当教員からのまとめ		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見だけでなく、討論することで、考えを深めることができるということに気付かせる。 	

資料・ワークシート

◆授業計画（5時間）

- 1時間 1. 今回のテーマについて賛成か反対か意思表示を行わせる。
 2. クラス内で1つのテーマを賛成2グループ、反対2グループに分けて、クラスを8つのグループに分けて準備。（班分けはくじ引き）
 グループごとに、バタフライチャート（出典：玉川学園『学びの技』を参照）を用いて賛成・反対の意見を整理し、ディベートの立論シート（反論を踏まえた根拠を考える）を作成する。
- 1時間 クラス内ディスカッションを実施し、クラスの中で意見交流、統一を行う。
- 1時間 ディベートに向けて最終準備。
- 2時間 クラス対抗ディベートとまとめ。（本時）

★論題が難しい場合は、ディベートに慣れてから行う方が効果的である。本校では、前3時間を使って、取り組みやすいテーマ（①高校に携帯電話を持ち込むべきか②高校に制服は必要であるか③寝具は布団かベッドか）でディベートを行った後、本テーマでのディベート活動を行った。

ジャッジペーパー

テーマ：

採点基準 各5点満点 (説得力の部分は×2点) 計25点	賛成 () 組	反対 () 組
説得力（論理性、根拠、準備）		
発表態度（表現力 [声の大きさ、丁寧さ]）		
チームワーク（全員の参加、班内での合意形成）		
時間配分（時間余り、浪費）		
合計		

◆点数の目安

- ・非常に良くできていた 5点
- ・まあまあ良くできていた 4点
- ・ふつう 3点
- ・あまりよくできていなかった 2点
- ・まったくよくなかった 1点

自己評価シート(番/氏名:)

ディベート(対 組)の自己評価シート

①自分が果たした役割、関わったことに○をつけよう(複数OK)

(議長 ・ タイムキーパー ・ ジャッジ ・ 書記 ・ 立論発表 ・ 反対尋問 ・ 反駁)

②自己評価 (4~6はディベート発表を行ったグループのみ)

1 ディベートまでの時間、準備をきちんと行うことができた。	5	・	4	・	3	・	2	・	1
2 意見を冷静に聞き、判断することができた。	5	・	4	・	3	・	2	・	1
3 意見を述べていない際も、有意義な時間を過ごすことができた。	5	・	4	・	3	・	2	・	1
4 グループ全員が協力してディベートに臨むことができた	5	・	4	・	3	・	2	・	1
5 発表の際は、声の大きさや丁寧さに気を付けることができた	5	・	4	・	3	・	2	・	1
6 持ち時間を有意義に使うことができた	5	・	4	・	3	・	2	・	1

[5(よくできた) → 1よくなかった]

③ベストディベーターを一人挙げるなら?(組 さん)

[理由:]

④ディベート活動で身についたことは?(複数OK)

(話し方 ・ コミュニケーション ・ 分析力 ・ 討論の仕方 ・ まとめ方 ・ 調査力
判断力 ・ 傾聴力 ・ 論理的思考力 ・ その他 [])

⑤今後、社会人として必要な能力とはどのようなものだと思いますか。

⑥感想

公民科 実践事例【判断する】〔ルール、公平・公正、正義〕

- 1 対象学年 第3学年
- 2 単元名 法の支配と権力分立
- 3 ねらい 法による支配の在り方の探究を通じて、論理的思考力や現実社会の諸課題について多面的多角的に考察し、公正に判断する力を身に付け、公共的な事柄に自ら参画しようとする意欲や態度を形成する。
- 4 本時の目標 法の支配と権力分立の必要性を理解することができる。また、ルール作りとその執行を体験するなかで、公正に判断する力を身に付けることができる。
- 5 本時の展開

過程	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	教材・教具等
導入	本時の内容把握	○本時の課題「法の支配がなぜ必要なのか」について確認し、学習に興味を持つ。			
展開	法の予見可能性	○幾つかのあまり知られていない違法行為について知り、法があらかじめ示されていることの重要性に気付く。		・法で禁止されていること以外は基本的には自由であることを示す。	ワークシート
	法の一般性 権力分立の意義	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 文化祭に向けた自主的な学級活動での遅刻をなくすため、自分がリーダーだったらどんなルールを作るか。また、どんな人にも、どんな状況でもルールを適用するか、しない場合はあるか、それはなぜか。 </div> ○シミュレーションを通じ、法の一般性(法が全ての人に等しく適用されること)が平等性を保障することを理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻を無くすためにどのようなルールが必要かを判断する。 ・遅刻した状況をふまえて、ルールを適用するかどうかを判断する。 ○ルールの適用を見送るような状況を考え、法やルールを作った者と適用する者が同じであれば、悪意がなくても法やルールを曲げてしまうことがあるということに気づき、権力分立の必要性を理解する。		・法やルールは、作成者を含めて全ての人に平等に適用されることに気付かせる。 ・権力の集中が恣意的な政治を招くこと、それを防ぐために権力分立が必要なことを理解させる。	
まとめ	法の支配と権力分立の必要性の確認	○法が明示され、すべての人に適用されることで、個人の自由と平等が守られること、そのためには、法を作る権力と実行する権力が分けられる必要があることを振り返る。		・法の支配を確かなものにするためには権力分立が必要であることを押さえておく。	

ワークシート

法の支配と権力分立について考えてみよう

1. 法と自由

課題① 次の行為のうち、罪になるものはどれか。

- ア 並んでいる列に割り込む イ つり銭を多く貰ったことに気付いたのに黙っている
- ウ 家族に伝えず南極探検に行く エ 決闘を申し込む

2. 法と平等性

課題② 夏休みに文化祭の準備のためクラスで集合した。しかし、遅刻をする人が多く、クラスリーダーのあなたは困っている。あなたはどんなルールを作れば遅刻がなくなると思うか。次の文章の空欄【Ⅰ 】【Ⅱ 】に入る語を、下のア～エから1つずつ選び、ルールを完成させよう。

ルール：遅刻をした人は【Ⅰ 】こととする。ただし、自分が、病気になるか、事故にあうか、事件に巻き込まれた場合は【Ⅱ 】こととする。

- ア 許される イ 全員の前で謝罪する
- ウ 居残り作業を1時間する エ 罰金1万円を払う

課題③ 2の課題②で決めたルールを実行させ、それをチェックするのはリーダーのあなたである。次の場合、あなたはルールを適用するか、しないか、それともルールを変更するか。その場合クラスメートにどのように説明するか。

- ア 一緒に登校している友人の自転車がパンクしたため遅刻した。
- イ 自分が昨夜文化祭の小道具を遅くまで作っていて、寝坊した。

	あなたの対応	クラスメートへの説明
ア	・適用する ・適用しない ・ルールを変更する	
イ	・適用する ・適用しない ・ルールを変更する	

3. 権力分立

課題④ 2の課題③でルールを曲げてしまう場合の原因は何か。

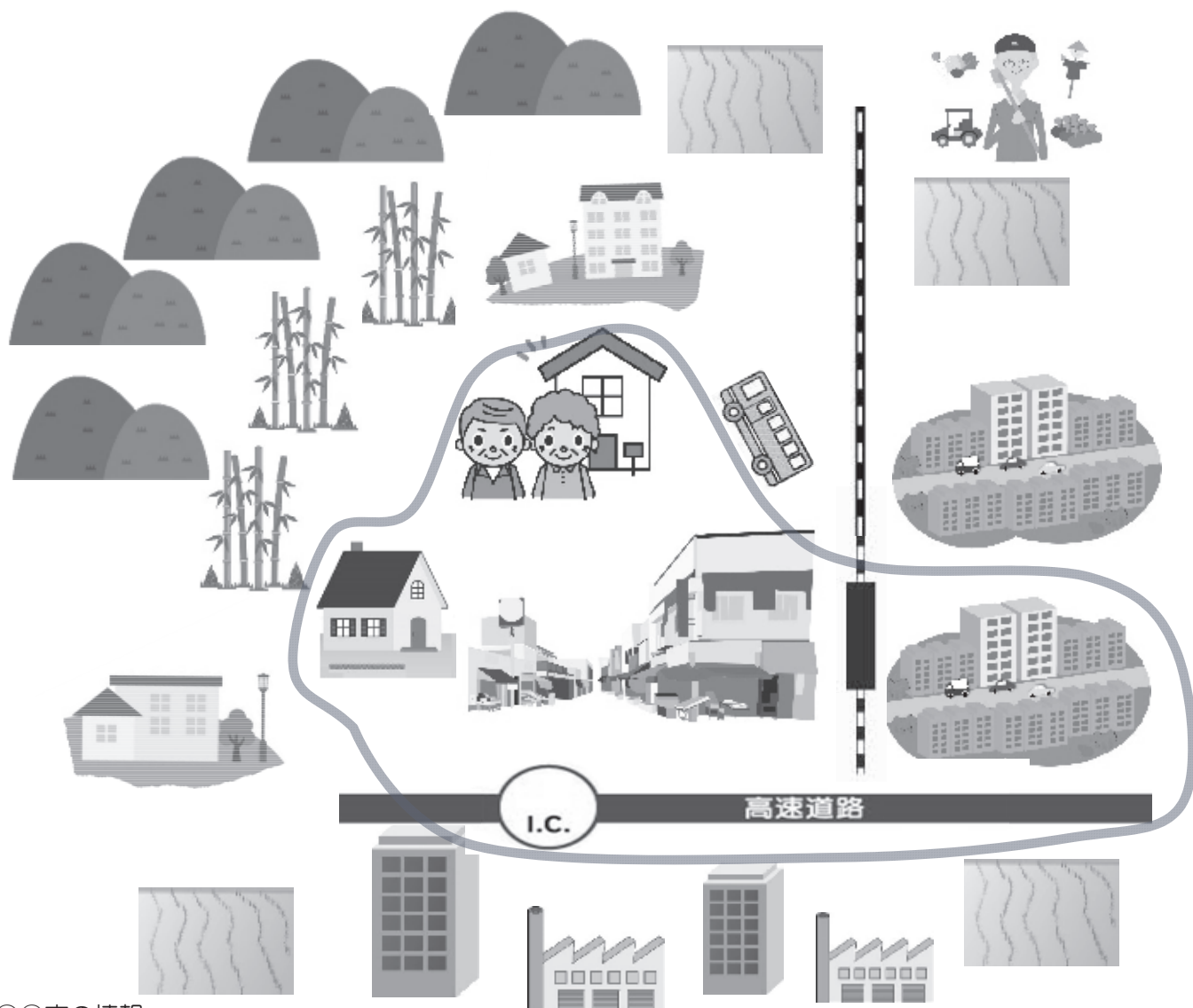
原因

公民科 実践事例【実践する】〔公平・公正、責任〕

- 1 対象学年 第2学年
- 2 単元名 模擬市長選挙
- 3 ねらい 政治参加の在り方の探究を通じて、論理的思考力や現実社会の諸課題について多面的・多角的に考察し、公正に判断する力を身に付け、公共的な事柄に自ら参画しようとする意欲や態度を形成する。
- 4 本時の目標 架空の模擬選挙を体験し、自治体の情報と候補者の公約を総合的に考え、議論するなかで、投票の際に公正に判断する力を身に付ける。
- 5 本時の展開

過程	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	教材・教具等
導入	めあて	○模擬選挙を通じて公約の検討・投票の体験を行うことを確認する。	一斉		
展開	市の認識	○架空の〇〇市の情報を得て、市民としての感覚を得る。	一斉	・絵地図であらましを説明する	・資料
	候補者の公約の検討	○市長候補3人の、それぞれの「財政・経済」「まちづくり」「社会福祉」分野の公約を検討する。 ・自分自身の考えと照らして考える。 ・候補者の模擬演説を聞いて考える。 ・グループで意見交換し、自分の考えを見直す。	個別のちグループ	・公約の検討の際には「自分にとっての利益、まち全体の利益、利益・負担の公平性、公約の争点、公約実現のための費用」の視点から考えるよう促す。	・ワークシート
	意思決定	○投票する候補者を決める。	個別	・合理的な理由を考えさせる。	
	投票体験	○模擬投票を行う。	一斉	・合理的な理由を考えさせる。	
まとめ	振り返り	○模擬選挙の活動を通じて感じたこと、考えたことをまとめる。	一斉	・本時の活動を通じて感じたこと、わかったことを振り返らせる。	

わたしたちのまち〇〇市



〇〇市の情報

人口	約10万人。高齢化が進んでいるが、企業の進出により子育て世代が増えつつある。	
各地域のようす	北西部	山林と竹林が広がり、特産物のたけのこが採れる。市街地に近い地域には閑静な住宅地がある。
	北東部	農地や古くからの集落が多い。農業は高齢化している。バス停や駅がなく交通の便は悪い。
	東部	マンション・アパートが多い。道路に歩道がないところがあり、危険が指摘されている。
	南部	高速道路のインターチェンジ付近にハイテク企業の工場が数社進出している。
中心地	駅前に昔ながらの商店街があるが、隣接市に大型商業施設ができ、にぎわいは衰えている。道路が狭く渋滞する。	
交通	鉄道や高速道路が通っている。バス路線(—)は市街地中心で郊外への路線はない。市内の一般道は狭く、特に市街地は朝夕に渋滞する。歩道や信号の整備は遅れがちである。	

市長選挙で候補者を選ぼう—模擬市長選挙—

次の表は市長の候補者名と公約の内容をまとめたものです。これを見て、市長の候補者の公約を検討しよう。

候補者名	公約内容		
	【経済・産業】	【まちづくり】	【社会福祉】
長岡京子	<input type="checkbox"/> 特産物の振興と農業後継者の育成と保護 <input type="checkbox"/> 地元商店街への資金援助と活性化への取組	<input type="checkbox"/> 農地・森林を保全し、静かで落ち着いた環境を整備 <input type="checkbox"/> 台風・地震等への対策による安心・安全な暮らし	<input type="checkbox"/> 地域ごとの高齢者福祉施設の整備とデイサービス等の支援の充実 <input type="checkbox"/> 子育て相談・支援体制の整備
竹林 豊	<input type="checkbox"/> 商工業の用地開発、企業への減税等による積極的な企業の誘致 <input type="checkbox"/> 起業者を支援する仕組みづくり	<input type="checkbox"/> 郊外の農地と森林開発による住宅地の開発 <input type="checkbox"/> 駅前再開発によるにぎわいづくり。宿泊施設・飲食店等の誘致	<input type="checkbox"/> 高齢者の働く場づくりや生きがいづくりへの支援 <input type="checkbox"/> 地域ごとの保育所の設置と子どもの医療費無償化
西山 茂	<input type="checkbox"/> 休耕田の活用等による都市住民の農業参入促進 <input type="checkbox"/> 地域の自然・文化を生かした観光の振興	<input type="checkbox"/> 主要幹線道路の拡幅と市街地の歩道の整備 <input type="checkbox"/> バス路線の郊外までの拡大と市街地での増便	<input type="checkbox"/> 高齢者福祉施設の整備とデイサービス等の支援 <input type="checkbox"/> 保育所の増設と学童クラブの拡充

(1) 各候補者の公約の中で、自分の考えに合う所を○で、自分の考えと違う所を□で囲んでみよう。その際、次の「考える視点」も参考にして考えよう。

考える視点

- ① 自分にとって利益になる公約はどれか。
- ② まち全体の利益の総和がより大きくなる公約はどれか。
- ③ 市民の利益または負担が、より公平・公正な公約はどれか。
- ④ 争点となりそうな、対立する公約はどれとどれか。
- ⑤ 大きな財源が必要な公約はどれか。

(2) 分からない言葉、具体的にもっと調べてみたい言葉に下線を引いておこう。

(3) どの公約が良いと思ったか、グループで意見を交換してみよう。また、自分が分からなかった言葉をほかの人は知っているか、グループで聞いてみよう。

良いと思った公約	
その理由	

(4) 話し合いを踏まえて、投票する候補者を自分で決めよう。

投票する候補者	
その理由	

総合的な学習の時間 実践事例【実践する】〔公平・公正、責任〕

- 1 対象学年 高等学校 第3学年
- 2 単元名 模擬市長選挙 「みんなのことをみんなで決めるために」
- 3 ねらい 公共的な事柄に参画しようとする意欲や態度を養う。
- 4 本時の目標 模擬市長選挙を通じて、生徒に社会的事象に関心を持たせ、社会における課題を多面的・多角的に捉えさせ、公正に判断する能力および、主体的に社会の形成に参画しようとする態度を養う。
- 5 本時の展開

過程	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	教材・教具等
導入		<ul style="list-style-type: none"> 平成28年6月19日以降に行われる国政選挙公示日から満18歳以上の者が選挙権を有することとなったことについて理解する。 	一斉	<ul style="list-style-type: none"> 選挙権の拡大について、生徒自身に問いかけながら、説明する。 	
展開	<課題1> 「選挙公報」	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 発問 「選挙公報を読み、あなたはどの候補者に投票しようと思いましたか？」 </div> <ul style="list-style-type: none"> 選挙公報の政策を読み、個人で考え 	個別	<ul style="list-style-type: none"> 投票しようと考えた理由を明記するよう指導する。 	ワークシート
	<課題2> 「演説を聞く」	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 発問 「立会演説を聞いてあなたはどの候補者に投票しようと思いましたか？」 </div> <ul style="list-style-type: none"> 立会演説を聞き自分の考えと、その理由を明記させる。 2人でペアをつくり、1人30秒計1分を5回繰り返し、意見交換する。 ※候補者インタビューを聞く。 班で意見交換し、誰に投票するかを決めて班ごとに発表する。 	個別 判別	<ul style="list-style-type: none"> 各候補者の演説や周囲との意見交換を通じて、多面的・多角的に課題をとらえさせる。 意見交換や班での議論の後、自分の考えがどのように変わったかを記入させ、理解を深めさせる。 	ワークシート
まとめ		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 発問 「投票者を選ぶ際に何が重要だと思いますか、また他人の意見を聞いて考えたことはどのようなことでしたか？」 </div> <ul style="list-style-type: none"> 選挙においては、誰に投票することが正しいのかという正解がなく、議論を通じて自分にはない考え方を他者から獲得しつつ、自分なりの考えを持ち、投票することが大切であること、一人の大人として判断し行動していくことが社会参画につながることについての認識と自覚を深めさせる。 		<ul style="list-style-type: none"> 社会の諸問題には定まった答えが無いこと、諸々の問題に対して、様々な見方、考え方があることを踏まえ、皆で話し合いを通じて、公正に判断していく必要があること、その際には他者との冷静で理性的な議論を通じて、自分なりの考え方を構築しつつ、適切に判断していくことの意義や必要性について理解を深めさせて日常生活における意識と行動の変容につなげさせる。 	ワークシート

ワークシート

第3学年「みんなのことをみんなで決めるために」

1. はじめに

平成 27 年、公職選挙法が改正され、選挙権年齢は、昭和 20 年（1945 年）に「20 歳以上の男女」となって以来、70 年ぶりに引き下げられ、「18 歳以上の男女」となります（平成 28 年 6 月 19 日以後の選挙から）。平成 28 年 7 月に実施される、参議院議員選挙から適用する見通しで、参院選の公示日以後に告示される知事選や市区町村長選など地方選挙も 18 歳から投票できるようになります。有権者となる皆さんに、いま知っておいて欲しいことがあります。

2.<課題1>あなたは誰に投票しますか？

(1) 選挙公報を読もう！

① 模擬市長選挙公報を読み、あなたはどの候補に投票しようと思いましたが？投票しようとする候補者に○をつけてください。

候補者	候補者 A	候補者 B	候補者 C
候補者に○			



② ○をつけた候補者を選んだ理由を書きましょう。

(2) 立会演説を聞こう！

① 立会演説を聞いてあなたはどの候補に投票しようと思いましたが？

候補者	候補者 A	候補者 B	候補者 C
候補者に○			

② 立会演説を聞き、あなたの考えは変わりましたか？ YES ・ NO

③ その理由を書きましょう。

(3) 候補者インタビューを聞こう！

① 候補者インタビューを聞いてあなたはどの候補に投票しようと思いましたが？

候補者	候補者 A	候補者 B	候補者 C
候補者に○			

総合的な学習の時間 実践事例【実践する】〔公平・公正、責任〕

- 1 対象学年 第2学年
- 2 単元名 模擬市議会議員選挙
- 3 指導のねらい 選挙権年齢が18歳以上に引き下げられ、今後は高等学校在学中より有権者として政治参加が求められる。模擬選挙を通して、有権者として自覚をもって「公平・公正」に判断し、主体的に社会参画しようとする意欲や態度を養う。
- 4 本時の目標 有権者としての自覚をもち、主体的に社会へ参画しようとする姿勢・態度を養う。
- 5 本時の展開

過程	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	教材・ 教員等
導入	選挙意識	○選挙意識を確認 ・「選挙では何を基準に投票するのだろう」 【投票要因】 政策（公約）・政党・争点（論点）・知名度（人気・評判・実績・イメージなど		<ul style="list-style-type: none"> ・多様な意見を取り上げ、関心を高める。 ・投票要因は、有権者の年齢、性別や社会的立場また社会情勢、世論などにより影響される。多面的・多角的な視野で判断し投票が必要であることを促す。 	
展開	候補者の比較検討	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">有権者として「選挙」を体験しよう</div> ○候補者の「選挙公約」を読み比較する。 ○候補者の「選挙演説」を聞き比較する。 ○投票したい候補者を選ぶ（1回目）	個別 一斉 個別	<ul style="list-style-type: none"> ・選挙公約・選挙演説を比較検討させ、投票基準を考えさせる。 ・「投票」したい候補者を選び（1回目）ワークシートに記入させる。また候補者の票数を（挙手等で）確認する。 	資料 「選挙公約」 ワークシート
	グループ協議	○グループで意見交流し、自らの投票理由を見直し深める。（ワークシート記入） ○投票したい候補者を選ぶ。（2回目）	グループ 個別	<ul style="list-style-type: none"> ・支持理由及び不支持理由を交流させる。 ・再度、「投票」したい候補者（2回目）をシートに記入させ、その後、票数を確認する。 	
	開投票体験	○グループ発表 ○模擬選挙を行う。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・有権者としての責任のある公平・公正な判断と（投票）行動の重要性を促す。 	投票用紙 投票箱
	開票と考察	○開票結果を通して、考察する。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・開票結果から票の動向（1・2回目も含め）を考察させ、一票の重要性を理解させる。 	
まとめ	振り返り	○ワークシートに感想を書く。	一斉		ワークシート

ワークシート

総合的な学習の時間

2年 組 番氏名

模 擬 選 挙

1. 「選挙公約」を読み「選挙演説」を聞き、投票したい候補者はだれですか？（1回目）

--

2. 【個別】 1. の候補者に投票したい理由（視点や判断基準）を書きましょう。

--

3. 【グループ】 各候補者に投票した理由（視点や基準）を、グループで交流しましょう。

候補者A氏に投票した理由	候補者B氏に投票した理由
候補者C氏に投票した理由	※他の候補者を支持しない理由をあげてみよう。

4. （グループ交流後）投票したい候補者はだれですか？（2回目）

--

5. （投票後の）開票結果をまとめよう。

候補者 A 氏 () 票

候補者 B 氏 () 票

候補者 C 氏 () 票

- 【授業のまとめ】 選挙（投票）を行った感想を書きましょう。

--

特別支援学校実践事例

作業学習 指導事例【考える、提案する】

1 対象生徒 高等部くらし職業コース3年生

2 単元名 高等部くらし職業コース作業学習 喫茶サービス

「カフェJOYオープン5周年企画」

3 ねらい

・学校創立5周年と「カフェJOY」オープン5周年での記念イベントを企画するなどして、感謝の気持ちを地域の方に伝える。

・カフェをより良くしていくための提案をし、意欲を持って考え、実行する力をつける。

・自分たちの考えを伝え、実行するための方法を体験を通して学ぶ機会とする。

4 企画内容

【企画名】「銅羅^{どら}焼きセット限定販売」

【期間】

平成28年2月15日(月)～3月7日(月) 月曜日、木曜日の計7営業日

【内容】

「京菓子匠〇〇」様の銅羅焼を、カフェJOYオープン5周年企画として期間限定でカフェメニューに加える。

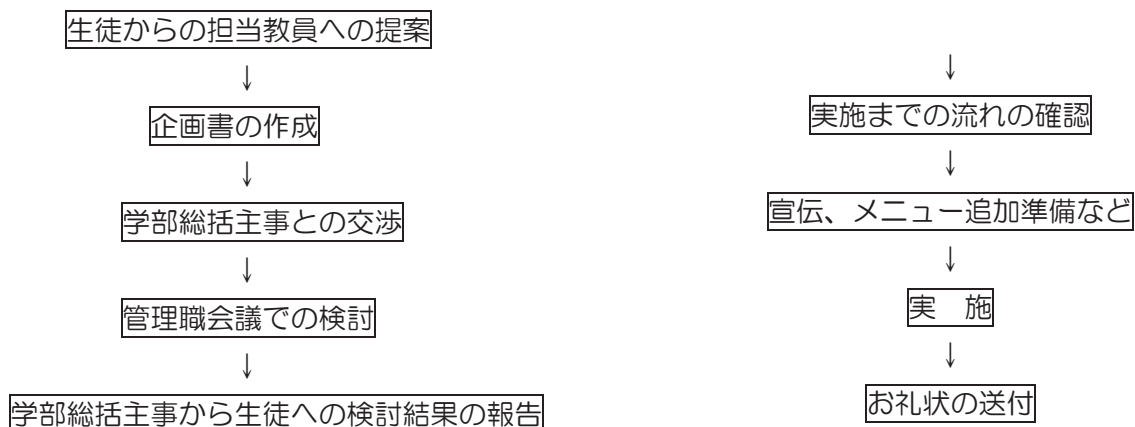
【企画の経緯】

A 支援学校では、作業学習として校内カフェJOYでの喫茶サービスに取り組んでいる。今年度本校は開校5周年を迎え、カフェでも開店5周年の企画として、「七夕感謝祭」「コンサート」等の企画に取り組んできた。その企画の一つとして、生徒から、現場実習でお世話になった会社の取引先の銅羅焼をカフェJOYオープン5周年記念メニューに加えることはできないかと提案があった。

生徒には「希望を言っても簡単に叶うことは少ない。カフェのメニューについても同じで、学校で商品として扱うものには学校の許可が必要で、更に先方にも了解していただいた上でしか行えない」旨を伝えたとこ、生徒自らで企画書を作り提出してきた。

生徒は、書字が苦手な漢字の一部や、文章の中の一文字が抜けることが多い。また、苦手意識から、雑な字になることもあるが、本企画書はていねいに字を書き、漢字も多数使用して作成した。また、何よりも、意欲が行動に結びついた企画書であるので、5周年記念と結び付け採用するに至った。

【実施までの流れ】





創立5周年

「カフェ JOY」 5周年 感謝祭第3弾！

「カフェ JOY」のオープンから5年がたちました。

地域の皆さまに支えられ、「カフェ JOY」は営業することができています。

そこで、第3弾として銅鑪焼^{どらやき}セットを限定販売いたします！

日頃の感謝の気持ちをお伝えしたく企画しました。みなさまのご来店を心よりお待ちしております！！

銅鑪焼セット販売期間

【2月、3月の月曜日・木曜日】

2月15日（月） 午前のみ

2月18日（木）

2月22日（月）

2月25日（木）

2月29日（月）

3月 3日（木） 午前のみ

3月 7日（月）

営業時間

☆午前 9時45分～
11時30分（ラストオーダー）

☆午後 13時10分～
14時15分（ラストオーダー）

特別支援学校実践事例

生活単元学習 指導事例【行動する】

- 1 対象学年 通学高等部 第3学年
- 2 単元名 選挙権（18歳選挙権）
- 3 教材観

18歳選挙権は、「これを機に政治に関心をもとう」「選挙に行こう」という啓発（若者と政治の関係性が変わるきっかけ）で終わらせるのではなく、気づきや発見を政治とつなげる場や機会づくりであると考えている。

学習内容を考える際に「若者と政治が触れ合う場や機会づくり」や「選挙の仕組みや投票の仕組みといった枠組み」という視点で終わることなく、大切なのは誰の生活にも密接に関わっている政治は、向き合い方次第で若者にでももっとよくすることができるということを学習することであると考え。すなわち、その課題に対する自分の選択肢を見出す力を養うということである。

一見、解決できない遠く思える大きな問題も自分の住んでいる地域や自分の問題に落とし込むことができればその可能性に気づけると考える。これまで学習に取り組んできた市役所訪問、就業・生活支援センターの訪問等からの学びを軸として自分の住んでいる地域や社会にどんな課題があって、その課題に対して自分はどう向き合うかを理解できる力を育てたい。

4 ねらい

①選挙の意義

→18歳選挙権を意味のあるものにするために、選挙の意義を考える。

②広い視野をもつ

→国政選挙や地方選挙、選挙公約や税の使い道によって身近な生活が変化した点を考え、社会に関心をもつ。

③政治に参加できる十分な知識と思考力をつける。

→市役所訪問、就業・生活支援センター訪問等で学んだことを軸として自分の住んでいる地域や自分の問題にどんな課題があるのかを把握し、投票シミュレーションをすることで選挙に参加する意義を明確にする。

5 本時の目標

①選挙公約や税の使い道によって身近な生活が変化する視点から選挙における一票の大切さを学ぶ。

②投票における手順やルールを理解する。

6 本時の展開（本時 7/9）

過程	指導内容	指導形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具等
導入	本時の内容把握	一斉	本時の流れを全員で確認する。 前回学習した投票における手順やルールを確認する。 自分の住んでいる地域や自分の問題に照らし合わせて一票を投票する。	教師が選挙の立候補者となり、それぞれの政策を発表する中で、どの選挙公約や税の使い道が自分の考えに近いかを考えさせる。	タブレット 大型ディスプレイ
展開	投票シミュレーション	一斉	①立候補者の演説。 ②選挙公約や税の使い道について考える。 ③一人一人の投票する視点を明確にし、政策と照らし合わせる。 ④投票を行う。 ⑤開票し投票結果を公表する。 ⑥投票した視点を振り返る。 ⑦当選者が公約違反を行った場合どう思うか考える。	投票用紙を全員に配布し、選挙活動におけるルールや投票の際の無効票についても説明しながら進める。 立候補者の政策を理解し、自分の考えで正しく投票できるように助言する。 自分の生活や問題に結び付けて、選挙に参加することの重要性について十分に考えさせる。	選挙用品・備品
まとめ	振り返り	一斉	まとめ	地域の課題や政治的な問題の解決というのは遠いことのように感じるが、「誰に投票するか」を考えることで、自分の価値観を発見し、自分が投票した候補者に対する責任感をもつことで、一票の大切さを感じられるようにする。	

特別支援学校指導事例

特別活動 選挙権年齢引き下げに関する指導・生徒会選挙

1 選挙取組について

1月に実施する生徒会選挙に向けて、「選挙権年齢引き下げ」、「選挙での投票の大切さ」、「投票の仕方」を、発達段階に応じた学習グループ別に指導した。

(1) 対象 高等部1、2、3年生

(2) ねらい

ア 自分たちの願いを実現するのにふさわしい人を考える機会とし、立候補者の演説を聞いて投票する。

イ 選挙活動をとおして、生徒会や生徒会活動について知る機会とする。

ウ 生徒会役員として友だちの願いを把握し、実現に向けて取り組む意欲をもつ。

エ 投票の意義や選挙のしくみを知る機会とする。

(3) 授業設定

ア 選挙について学ぶ 2時間 ねらい ア

イ 生徒会選挙立会演説、投票 2時間 ねらい ア、イ、ウ、エ

2 選挙について学ぶ【知る】

(1) 対象 高等部1、2、3年生 C段階、D段階

(2) 単元名 「18歳選挙権を知って投票に行こう」

(3) 本時の目標

ア 選挙権や選挙での投票の大切さを知る。

イ 選挙での投票の方法を知る。

(4) 本時の展開

過程	指導内容	学習活動	形態	指導上の留意点	準備物
導入	本時の内容把握	本時の目標を知る 広瀬すずさんのメッセージを見る（総務省）	一斉	・生徒に興味をもたせるため、同世代のメッセージを聞かせる	プロジェクト
展開1	選挙や政治について知る	投票はなぜするのか考える 政治について知る 政治の仕事について知る 社会のきまりをつくる（法律、条例） 税金の使い方を決める（予算） 選挙の種類を知る（国、府、市） どう選べばいいのかを知る 候補者を知るための方法を知る 街頭演説・立会演説会 テレビ政権放送 投票の方法を知る 入場券を持って投票場に行く 期日前投票	一斉	・分かりやすい言葉で発問し、生徒の発言を促す ・考える時間をとった後発言させる	

展 開 2	投票疑似体験	実際に投票をする 入場券を持って受付に行く 投票用紙を受け取る 記載台にて記入（仮市長候補者より） 投票する	個別	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に近い形で投票させるため、本物を使用する ・車イスの生徒に合う高さの記載台を用意する ・見えやすい場所に立候補者の名前を掲示する 	記載台 投票箱
ま と め	復習	18歳になったら選挙に行こう しっかりと考えて投票しよう	一斉		

3 生徒会選挙【行動する】

- (1) 対象 高等部1、2、3年生 C、D段階
- (2) 単元名 特別活動生徒会選挙
- (3) 本時の目標 自分たちの願いを実現するのにふさわしい人を考える機会とし、立候補者の演説を聞いて投票する。

過程		学習内容	形態	指導上の留意点	準備物
導 入	本時の内容把握	選挙管理委員会から本日の予定を聞く 立会演説会の説明を聞く	一斉	・選挙管理委員の役割を明確にする	掲 示 物
展 開 1 展 開 2	立会い演説会	応援演説と立候補者の演説を聞く （会長→副会長→議長→書記） 各候補者に質問する 投票についての説明を聞く 3年生→2年生→1年生の順に、受付へ 投票用紙をもらいに行き、記入場所で、 記名をして投票する。	一 斉 個 別	<ul style="list-style-type: none"> ・質問をする生徒が偏らないように指名する ・生徒会選挙に関する質問に限定する ・投票用紙は事前に配布し、忘れないように会場に持参させる ・会場が込み合わないよう、入場に時間差をつける 	
ま と め	振り返り	投票が終わった生徒は、事前学習で習った選挙についての復習プリントをする。 投票後、選挙管理委員は投票箱を持って生徒会室で開票する。	個別		

資料 1

こうとうぶせいとかいせんきよ 高等部生徒会選挙		投票所 入場券	
どうひょうにちじ 投票日時	へいせい ねん がつ にち 平成28年1月21日		
どうひょうじよ 投票所	けいふりつ しえんがっこう かいぎしつ 京都府立 B支援学校 会議室		
名簿番号	氏 名		
投票用紙交付			
会長	副会長	議長	書記

資料 2

書記	議長	副会長	会長
<small>こうほしやしめい</small> 候補者氏名	<small>こうほしやしめい</small> 候補者氏名	<small>こうほしやしめい</small> 候補者氏名	<small>こうほしやしめい</small> 候補者氏名

- 一、候補者の氏名は、欄内に一人書くこと。
- 二、候補者でない者の氏名は、書かないこと。